

国語科

| 学年 | 課題となる観点 | 問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞ | 自校正答率 【全国比】 | 児童の誤答の傾向と分析（○） 教育指導上の要因分析（●） | 課題改善のための＜指導場面（指導時期）＞と具体的な取組 | 目標値 | 検証値 【6月調査比】 |
|----|--------------------------------|---|---|--|--|------------------------------|---|
| 2年 | 話す・聞く能力 | 6(2) 質問してわかったことを相手に応じて話すことができる。 ＜小学校1・2年 A話すこと・聞くこと(1)イ＞ | 55.0% 【+1.6P】 | ○「内容が一部不十分」である解答や「設問で求められているレベルと異なる語句」を解答する傾向が見られた。これは、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを十分に理解せず聞いていたり、話の内容を捉えきれていなかったりするためではないかと考えられる。 ●話の内容を捉える指導が不十分であった。 | 《話すこと・聞くことに関する授業（8月・10月・2月）》 「紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする言語活動」を位置付けた単元により指導し、その中で聞き手を意識した話し方をすることで、相手意識を持ち話せるようにしていく。 《話すこと・聞くことの学習（通年）》 朝の会のスピーチで、質問だけでなく、分かったことをペアの人に伝える活動を行う。 | 正答率 65% | 正答率 73.7% 【+18.7P】 |
| 3年 | 話す・聞く能力 | 1(2) 大事なことを落とさないように聞き取ることができる。 ＜小学校1・2年 A話すこと・聞くこと(1)エ＞ | 70.6% 【-15.7P】 | ○放送を聞いて答える問題では、聞いたことに対して、質問したいことを考え書くことはできるが、聞いたことをメモし、それを基に答えることに苦手な傾向が見られる。これは、メモをとる際に必要な情報を選別し、短くまとめることができているためだと考えられる。 ●普段の授業の中で、聞いたことを短くメモする習慣や、そのメモを基に答えを導き出す指導が不十分であった。 | 《話す・聞く授業（9月・10月・3月）》 「話すこと・聞くこと」において、目的を意識しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめさせる。 《授業の中で友達のを考えをメモする活動（通年）》 普段の授業の中で、友達のを考えを聞き、聞いたことを自分のノートに書かせる活動を継続して行う。 メモの取り方を理解した上で、必要な情報を選別し、短くまとめる活動を継続して行う。 | 正答率 85% | 正答率 94.1% 【+23.5P】 |
| 4年 | 言語についての知識・理解・技能 | 2(1) ①第3学年配当漢字を読むことができる。 ＜小学校3・4年 伝国(1)ウ(イ)＞ 3(1) 主語と述語について理解している。 ＜小学校1・2年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(カ)＞ | 25.0% 【-27.7P】 58.3% 【-5.1P】 | ○「平等」を正しく読むことができていなかった。同様の漢字の読み方を問う問題で「定める」も正しく読むことができていなかった。また、無回答が12.5%と高い。 ●漢字を読むことについての力が不十分であった。また、分からなくても挑戦しようという意欲を高める必要がある。 ○「主語」「述語」を正しくとらえることができていない児童がいる。 ●主語や述語が何か指導し直す必要がある。「主語」と「述語」を抜き出したり、線を引いたりしながら確実にとらえさせる必要がある。 | 《漢字テストの実施（通年）》 漢字を読むこと、書くことのミニテストを授業の始めに実施する。 《主語・述語を確認して読む物語文の授業（10月、12月、3月）》 主語と述語を確認しながら読み、本文を正しくとらえ、物語を深く読むことができるように指導する。 《並行読書（通年）》 本を読むことを通じて、漢字や文章に読み親しませる活動を継続して行う。 | 正答率 55% 正答率 60% | 正答率 67% 【+42P】 正答率 92% 【+33.7P】 |
| 5年 | 話す・聞く能力 言語についての知識・理解・技能 | 1(2) 話し方の工夫に注意して聞き取ることができる。 ＜小学校3・4年 話すこと・聞くことA(1)エ＞ 2(2) 第4学年配当漢字を書くことができる。 ＜小学校3・4年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)ウ(イ)＞ | 78.9% 【-4.4P】 47.4% 【-4.2P】 | ○話を聞く際には内容に集中しており、話し方の工夫を意識して聞けていない。 ●日頃話す時、相手に分かりやすいように工夫して話す意識をもたせる指導が不十分だった。 ○漢字の読みはよくできていたが、書きの正答率が低かった。ノートや日記等、普段の生活場面で習った漢字を使用せず、ひらがなで書く児童が多く見られるため、習った漢字が身に付いていないと考えられる。 ●日頃から漢字を使用する指導や、漢字や熟語を色々な場面で活用する指導が不十分だった。 | 《話し方の学習（9月、10月、2月、3月）》 話す時、具体例を用いて話す、相手の意見を踏まえて話すなど、分かりやすく話すための方法を指導し、それを日頃から実践させることで身に付けさせる。また、友達の話しの良いところ、工夫しているところを見つける場面を仕組む。 《漢字の学習（通年）》 日頃から継続して漢字学習を行う。新出漢字を学習する際、熟語や例文を丁寧に押さえたり、色々な問題に当たらせたりして、漢字の活用力を高める。 《ノート指導（通年）》 普段から習った漢字は確実に使用することを意識して指導する。また、漢字ノートに自分で習った漢字を使って例文を書かせる等、漢字を活用する場面を作る。 | 正答率 80% 正答率 80% | 正答率 83% 【+4.1P】 正答率 89% 【+41.6P】 |
| 6年 | 言語についての知識・理解・技能 | 3(3) 連用修飾語について理解している。 ＜小学校3・4年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(キ)＞ | 35.0% 【-1.9P】 | ○「きのう、わたしは図書館で本を借りました。」の文章の中で「きのう」がどの言葉をくわしく説明していますか。という設問に対しての正答率が低く、誤答の中で選択肢2「図書館」を選んでいるものが45.0%と多い。このことから、修飾語の理解に課題があると考えられる。 ●文の中での主語や述語を捉えることや、修飾や被修飾の関係についての指導が不十分であった。 | 《言葉の使い方の授業（1月）》 「表現技法の効果について知り、表現を工夫して伝える。」を位置付けた単元により指導し、その中で語句と語句との関係について理解させ、語彙を豊かにさせるとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うようにさせる。 《言葉（通年）》 主語の省略によって誤解しやすい文章や、多義文を取り上げることで、文の構成と意味との関係に気づかせる。 | 正答率 70% | 正答率 75.0% 【+40P】 |